イスラ ムにおける非ムスリムの 利（13/13）：外国の侵略からの保

：

明:
ジズヤを支 うことによって非ムスリムが享受することの出来る、外部 力の侵略からの保 という 利について。

目: 事 代におけるイスラ ムとノンムスリム

より: IslamReligion.com（サ リフ アル＝ア イド博士による ）

日10 Dec 2012

集日 10 Dec 2012

非ムスリムの市民はムスリムの市民同 、外 からの保 を受ける 利を有します。ジズヤの支 いは外部からの侵攻、 からの防 、また から捕 とされた の身代金の支 いが保 1されます。

著名な中世イスラ ム学者の一人、イブン ハズムはこう しています。

「もし我々が 国に攻 を受け、彼らが我々と共存する契 の民をも攻 の 象とするなら、神と使徒が保 した契 の民を保 するために完全武装し、死を 意することは我々の である。それ以下のことをするか、または彼らを明け渡すのであれば、神 なる 束の放 として咎められることになるのだ。」2

ムスリムがズィンミ （イスラ ム国家内に居住する非ムスリム庇 民）のために神 な 束を果たしたことは、 史上の多くの例が 言しています。 言者ムハンマドの教友アブ　ウバイダ アル＝ジャッラ フは、シリア征服 の 率者でした。彼はシリアの人々とのジズヤの支いの合意を成立させた人物です。

ムスリムの信仰深さと忠 心を理解していたシリアに住む契 の民は、ムスリムの に 抗し、ムスリムたちを援助しました。各地の住民はビザンチンに してスパイを送り み、ビザンチンが　を募っていることをアブ　ウバイダの司令官たちに えました。 果的に、ムスリムたちは彼らの保 を保 出来ない恐れがあると　んだため、アブ　ウバイダは司令官たちにジズヤとして　したお金をすべて返金する旨を明 にし、次の手 をシリアの人々に宛てて きました。

「　が送り まれる知らせが届いたため、我々はあなたがたのお金を返却する。我々の合意の条件には、我々によるあなたがたの保 が盛り まれていたが、そうすることが困 であるため、あなたがたから　したものをお返しする。もしも神が我々に 利をお授けになれば、我々の合意は固守されよう。」

司令官たちがお金を返却し、既述の声明を えたとき、シリアの人々の反 は次のようなものでした。

「神があなたを再び我々の元に 事お返しになりますように。神があなたに 利をお授けになりますように。もしビザンチンがあなたの立 だったのであれば、彼らは何一つ返却しなかったでしょうし、彼らは我々の所有物を片っ端から いとり、我々を身一つにしたことでしょう。」

ムスリムたちはその いに 利しました。同盟 の 北を目 した街の人々は、ムスリムたちと休 の　を望みました。アブ　ウバイダは休 を び、最初の 定で述べられていた全ての　利を彼ら全てにも提供したのです。彼らはまた、彼らの に潜んでいるビザンチン人たちが家族や　に危害を加えられることなく安全に 国出来るよう要求し、アブ　ウバイダはそれに合意しました。

その シリア人たちはジズヤを め、街を 放してムスリムたちを 迎しました。 途にあったアブ ウバイダは市民 村民の代表者たちと会い、彼らからも 定が ばれるよう求められ、それに喜んで じました[3]。

ムスリムによる非ムスリム市民の防 のもう一つの例は、イブン タイミ ヤの行 から 出すことが出来ます。彼は捕 の 放を求めてシリアを侵攻したタタ ル人の指 者の元を れました。タタ ル人の指 者はムスリムの捕 の解放に合意しましたが、イブン タイミ ヤは を唱えました。

「我々はユダヤ教徒とキリスト教徒の捕 たちも同 に全 放されるまでは 足出来ない。彼らは契 の民である。我々は同胞であれ、契 下にある人々であれ、捕 を てたりはしない。」

彼はタタ ル人たちが彼ら全 を解放するまで粘り く交 し、それを させたのです[4]。

さらに、イスラ ム法学者たちも、非ムスリムを外部の侵略から保 することは、内部の抑 から守ることと同 の であると述べています。アル＝マ ワルディ は述べています。

「ジズヤの支 いは、契 の民に次の二つの 利を与える。彼らには第一に干 を受けない平 な暮らし、第二に保 が保 されるのだ。このようにして、彼らは社会における安全と、外部の 威からの保 を受けるのである。[5]

イスラ ムでは、非ムスリム市民への保 を放 することは、 行 抑 の一形 であると なします。神はこう述べています。

"…????????????????????????????????"??????25?19?

契 の民に危害を加えること、抑 することは重大な罪であると なされるのです。彼らとの 定を守ることは、ムスリムのカリフとその代表者たちによる なのです。 言者は 判の日、彼らに危害を加える者たちに し、ズィンミ の弁 をすると 束しています。

??? ???

イスラ ム法のすべての根 は、契 の民を保 する点において合意します。著名なイスラ ム学者、アル＝カラ フィ はこう しています。

「契 とは、我々にそれを 付ける条件を有する契りであり、神と使徒の契 、そしてイスラ ムの教えによって彼らは我々の保 下に入り、 人となるのである。もし かが不 切な言 、中 、あるいはいかなる の迷惑であれ彼らに危害を加えるのであれば、その人物は神 、その使徒、そしてイスラ ムの契 を んじているのである。[6]」

イスラ ムにおける第二代正 カリフであるウマルは、彼に接 に来る属州からの 者たちに地での契 の民の状 について ね、こう言ったものでした。「我々は、 定が依然として守られているかどうかを知りたい。」[7]
また、彼は死の床においてこう言ったことが 告されています。「私の にカリフを ぐ者に し、契 の民に良い 遇を与え、 定を 持し、彼らに危害を加えようとする者たちと い、彼らに重荷を背 わせないよう、命じるのだ。」[8]

イスラ ム学者たちによる著作、そしてムスリムの 治者たちの行 は、こうした非ムスリムの 利に する最初期からのイスラ ム的 を しているのです。

Footnotes:

1 Some parts of this article are taken from the books: ‘*Ghayr al-Muslimeen fil-Mujtama’ al-Islami,*’ by Yusuf Qaradawi and ‘*Huquq Ghayr is-Muslimeen fid-Dawla al-Islamiyya,*’ by Fahd Muhammad Ali Masud.

2 Qarafi, ‘*al-Furuq,*’ vol 3, p. 14

3 Abu Yusuf, *Kitab al-Kharaj*, p. 149-151

4 Qaradawi, Yusuf, ‘*Ghayr al-Muslimeen fil-Mujtama’ al-Islami,*’ p. 10

5 Mawardi, ‘*al-Ahkam al-Sultaniyya,*’ p. 143

6 Qarafi, *‘al-Furuq,’* vol 3, p. 14

7 Tabari, *Tarirk al-Tabari,* vol 4, p. 218

8 Abu Yusuf, *Kitab al-Kharaj*, p. 1136

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/422

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。